

記録

明治大学考古学研究室動向 2022 年 (2022.01.01-12.31)

新型コロナウィルス (COVID-19) の感染拡大は、3 年目を迎えたがいまだ終息に至っていない。昨年度に続いて考古学研究室の教育・研究活動は大きく制限を受けることになったが、年度初めのガイダンスや新入生歓迎会は対面実施が可能となった。学生を率いたフィールドワークは規制の合間を縫って実施し、夏季休暇中の実習授業は感染爆発の影響で、一部のメニューが中止・代替措置がとられた。

I. 研究室スタッフ (2022 年度)

教授：阿部芳郎・石川日出志・佐々木憲一・藤山龍造・若狭徹、研究知財特任教授：栗島義明・池谷信之。

大学院博士後期課程：蒲生侑佳、佐藤兼理、轟直之、大熊久貴、箕浦絢

大学院博士前期課程：吉木誉絵、竹林香菜、安藤壯平、三邊有希、岡田侑子、鈴木静華、富田樹、井上姫菜乃、桑村夏希、小西竜世、佐藤豪、舎川史矩

II. 研究プロジェクト等

1. 明治大学研究クラスター

- ①国際日本古代学研究クラスター（以下、古代研）：
石川日出志（代表）・佐々木憲一・若狭徹および古代史・古代文学関係研究者
②資源利用史研究クラスター：阿部芳郎（代表）・宮腰哲雄名誉教授・本多貴之准教授・米田穣（東京大学総合研究博物館教授）および縄文時代関係研究者

2. 黒耀石研究センター：石川日出志（センター長）・藤山龍造・栗島義明特任教授・池谷信之特任教授・能城修一客員教授・島田和高博物館学芸員ほか

3. 文科省研究助成・科学研究費等

- ①研究代表者：阿部芳郎 科研費基盤研究（A）「古代製塩技術の実証的研究」（2019 年度～2022 年度）
②研究分担者：阿部芳郎 科学研究費基盤研究（A）「初期の縄文土器の機能に関する総合的研究」（代表者：米田穣 東京大学）（2019 年～2023 年）
③研究分担者：阿部芳郎 科学研究費基盤研究（C）「骨角製装身具類の包括的検討からみた縄文から弥生への

時代変遷の解明」（代表者川添和暁 愛知県埋蔵文化財センター）（2020～2023 年度）

- ④研究分担者：佐々木憲一 文部科学省新学術領域研究（研究領域提案型）「出ユーラシアの統合的人類史学」A03 班「集団の複合化と戦争」（領域代表 松本直子 岡山大学；班代表 松木武彦 国立歴史民俗博物館）（2020～2023 年）

[この他、黒耀石研究センタープロジェクトメンバーによる科研費基盤研究（A～C）25 件]

- ⑤研究代表者：石川日出志 科学研究費基盤研究（B）「璽印・ガラス・鉄器からみた西暦 1～3 世紀日本列島・東アジアの広域交流の重層性」（2021～2023 年度）

4. その他

- ①研究分担者：佐々木憲一 国際共同研究プロジェクト助成「アメリカ合衆国国立スマソニアン研究機構との日米文化財資源化のための共同研究」（代表者：山内健治政治経済学部教授）（2022 年度）
②研究分担者：若狭徹 奈良県立万葉文化館委託共同研究「古代における地方文化の創成」（2022～2023 年度）
③研究代表者：佐々木憲一、研究分担者：若狭徹 国立歴史民俗博物館共同研究「東アジアからみた関東古墳時代開始の歴史像」（2022 年度～2024 年度）

III. 研究活動記録

1 月 9 日：明治大学と大阪大学・京都府立大学・関西大学との考古学・古代史大学院生研究交流プログラムをオンラインで開催、富田樹（M1）「「前方後円形小墳」に関する再検討一下毛野を中心の一」、岡田侑子（M1）「カマド出現以降の古墳時代堅穴建物の空間利用」、吉木誉絵（M2）「貼石と葺石の連続性に関する再検討 - 前方後円墳の形成過程を探る試み」

2 月 21 日：佐々木教授、南カリフォルニア大学主催の国際ワークショップ「Use of Maps for Medieval Japanese History」で、「Use of Maps for Archaeological Investigations in Japan.」と題し、オンラインで研究発表。

2 月 25 日：卒論発表会をオンラインで開催、大井啓輝（4 年）「縄文土器の規格性における共時的・通時的検討—中期中葉から後期前葉にかけて—」、桑村夏希（4 年）「縄文時代中期～晩期の関東地方における土器の器種

組成変化の要因—4.2ka イベントに起因する環境決定論の可能性の検討—」、鈴木天海（4年）「弥生時代中期における播磨地域の土器編年と南関東の東部瀬戸内系土器について」、小西竜世（4年）「茨城県域における 6・7 世紀土師器様式の再検討」、島根永臣（4年）「古代印旛郡における墨書き土器の動向」

3月 26 日：2021 年度卒業式

4月 1 日：阿部教授特別研究。助手：大熊久貴、TA：佐藤豪・舍川史矩・鈴木静華・富田樹が着任。

4月 9 日：新入生歓迎会を対面で開催。

4月 29 日：大学院考古学研究 V・演習 I（3年生）の授業に伴い、若狭教授の引率で東京国立博物館を見学。

5月 15 日：大学院考古学研究 I として東京国立博物館見学。

5月 21 日：大学院考古学研究 IV の授業に伴い、佐々木教授の引率で群馬県高崎市域の古墳時代遺跡を見学。

5月 25 日：大学院考古学研究 V の授業に伴い、若狭教授の引率で神奈川県立歴史博物館の「洞窟遺跡を掘る」展を見学。

6月 4 日：佐々木教授、第 56 回日本文化人類学会研究大会で「明治大学によるアラスカにおける考古学調査の概要とその成果」と題し、研究発表。

6月 18 日：夏期「どんぐり会」をオンライン開催。
舍川史矩「秋田県域における縄文時代早期から前期の石器製作活動」、桑村夏希「関東の縄文時代中期から晩期における土器変化と環境の関係性について」、佐藤豪「平沢型壺の形態と地域性」、井上姫菜乃「甲冑出土古墳における鉄鏃の分類」、小西竜世「茨城県域における古墳時代後期の土器様相」

6月 19 日：基礎演習（1年生）の授業の一環として、埼玉県行田市埼玉古墳群とさきたま史跡博物館を見学。引率：藤山教授、若狭教授。補助：助手大熊、TA 佐藤・舍川・鈴木・富田、院生井上・桑村・小西。

6月 21 日：佐々木教授、「アメリカ合衆国国立スマソニアン研究機構との日米文化財資源化のための共同研究」の一環としてのスマソニアン研究所との共同ワークショップで、「Meiji University Expedition to Alaska in the 1960s.」と題し、オンラインで研究発表。

6月 28 日：石川教授、財福島県文化財センター白河館館長（非常勤）就任。

7月 17 日～24 日：佐々木教授、「集団の複合化と戦争」の一環で、アメリカ合衆国オハイオ州コロンバスとマサチューセッツ州ケンブリッジで資料調査。

7月 21 日：大塚初重名誉教授ご逝去。

8月 2 日～8月 11 日：佐々木教授、考古学実習 I（1年生）、考古学実習 II（2年生）で埼玉県東松山市五領遺跡の再整理作業。

9月 5 日～9月 9 日：若狭教授、考古学実習 I（1年生）、考古学実習 II（2・3年生）で群馬県高崎市上滝町上滝遺跡群の発掘調査。補助：TA 鈴木・富田・佐藤

10月 5 日：大学院考古学研究 V の授業に伴い、若狭教授の引率で大田区立郷土資料館の「大勾玉展」を見学。

10月 22 日：基礎演習（1年生）の授業の一環として、群馬県みどり市の岩宿遺跡・岩宿博物館を見学。引率：藤山教授、若狭教授。補助：助手大熊、TA 佐藤・舍川・鈴木・富田、院生井上・桑村

10月 28 日～11月 3 日：藤山教授、考古学実習 I（1年生）、考古学実習 II（2年生）で神奈川県横浜市赤穂原遺跡出土資料の整理作業を実施。

11月 4 日・11 日・18 日・25 日：博物館第 69 回考古学ゼミナール「大塚初重先生と明大考古学」開講。講師：橋本裕行講師・矢島國雄名誉教授・忽那敬三学芸員・石川教授。

11月 27 日・12月 3 日・11 日・1月 15 日・17 日：石川教授、考古学実習 I（1年生）、考古学実習 II（2年生）で神奈川県三浦市赤坂遺跡の現地見学と整理作業。

11月 27 日～12月 5 日：佐々木教授、「アメリカ合衆国国立スマソニアン研究機構との日米文化財資源化のための共同研究」の一環で、アメリカ合衆国首都ワシントン、国立スマソニアン研究機構にて資料調査。

11月 30 日：大学院考古学研究 V の授業に伴い、若狭教授の引率で国立歴史民俗博物館の「加耶」展を見学。

12月 10 日：駿台史学会大会開催、轟直行「考古学からみた境界領域—弥生時代後期の荒川下流域を事例として—」、佐々木憲一「古墳時代における東北日本フロンティアの諸相」

12月 17 日：冬季「どんぐり会」をオンラインで開催。松本康太郎「土器を構築材とするカマドの基礎的研究—埼玉県域を中心に—」、小西竜世（M1）「茨城県域における 6・7 世紀の土師器群の数値的検討」、大熊久貴（D2）「古代横櫛の製作技術」

12月 26 日：佐々木教授、考古学実習 I（1年生）、考古学実習 II（2年生）で、埼玉県東松山市域の古墳時代遺跡を見学。



コロナ下で行われた考古学実習 I・II（群馬県高崎市上滝遺跡群）の様子